

ぼうさい

〈発行〉

平成30年2月20日

第14号

NPO セーフティネットぼうさい

NPO セーフティネットぼうさい (代表 尾身誠司)

〒948-0003 十日町市本町6の3丁目545-14

電話：025-752-7353 FAX：025-750-3670



E-mail：tbk119@jeans.ocn.ne.jp

設立15周年を迎えるにあたり

代表 尾身 誠司

平成16年NPOを設立してから今年で15周年を迎える。中越大地震、中越沖地震、長野県境地震、新潟・福島豪雨と幾多の災害を体験してきた。日本列島は地震活動期に入っており、東日本大震災で未曾有の被害を受けた。

古来より自然災害は繰り返されていくが人間が作り出した文明は原発事故を伴う複合災害を引き起こした。心配される東京直下地震、南海トラフの活動とどう対応すればよいのかあまりにも防災活動が複雑になり、いろいろな情報が飛び交い、我々も対応しきれなくなってきた。しかし、防災の基本である「自助・共助・公助」「自分の身は自分で守る。地域は地域で守る。」

「備え」を主幹として活動することを忘れてはならない。

災害の教訓から会得した「地区防災計画作成」は十日町市においては平成24年から「防災マップづくり」を実施、すでに9

カ所の自主防災組織で運用されている。内閣府が26年制度の施行を始める前から実施していたことになる。まさに「ボトムア

ップ型」防災計画であった。作成ガイドラインが提示されたがすでに作成されている地区防災計画は内容をほぼ網羅しており、逐次改正をすれば十分と思える。

昨年7月十日町市を襲った集中豪雨で初めて全市避難準備・高齢者等避難開始情報が発令された「指定避難所」が開設された。今回の事態は様々な問題を提起した。「地区防災計画」に基づき活動したある防災組織は関係行政機関等と検証し要援護者の情

報を把握している民生・児童委員と情報共有避難行動の協力を確認した。行政の垣根を越えた話し合いはまさに「提案型地区防災計画」と確信する。

十日町地域は平成23年新潟・福島豪雨を教訓に「越後妻有防災ネット協議会」を発足、社会福祉協議会・青年会議所・NPOぼうさいの特性を生かした防災のネットワークを構築し、主としてボランティアセンターの開設を担うが、普段からの防災活動として小中学生、高校生への防災教育を実施、好評である。

受援計画を作成し今年度は中越大地震15周年にもあたり検証を予定している。このように各種災害を体験した十日町市から県内・全国に防災対応を発信することに意義があり今後益々私たちの活動が注目される。

NPOぼうさいも「15周年記念防災シンポジウム」を計画し、更なる地域防災の向上を図っていく所存である。



越後妻有防災ネットワーク協議会
「受援計画策定研修会」

事務局長となつて

事務局長 高橋 敏昭

今年度から事務局長を引き受けることになりましたが、平成23年仲間に入れさせて頂いてから6年、NPOの組織の基本も分からないまま事務局長を引き受け、最初の仕事が定款変更でした。既に変更の骨子は出来ていたのですが、もちろんスムーズに事が運ぶ訳がありませんでしたが、尾身代表や市の担当者の指導を得て無事終了することが出来ました。

事務局長と言っても特別なことが出来るわけでもありませんが、活動の足を引っぱる事が無い事を第一に、それぞれの事業が効率よく進んで行けるように少しでも力になればと思っています。また、わたしも含めてですが年

を追うごとに高齢化は進んで行く訳でして多くの組織も避けて通れない悩みの一つだと思えます。これからも長く活動が継続して行けるよう新会員の拡大にも力を入れて行ければと考えております。

今後とも会員の皆さまのご協力をよろしくお願い致します。

十高ゲトステイチャー

副代表 榎沢 英和

十日町高校では、2学期の期末テストが終わって冬休みに入る直前、センター試験に関係しない生徒を対象に、ゲトステイチャーを招いて課外授業を昨年より実施している。

私は昨年に関わらなかったが、今年も定年退職を迎え、有給休暇消化月間となった12月、母校でもあるので積極的に手を挙げ

た。

我々NPOセーフティネットワークぼうさいは、生徒たちに防災教育を体験してもらおうと、4日間で11単位の授業を計画した。

1日目は、防災講話を高橋・藤木両防災士から受け持っていた。2日目は、防災ワークショップを尾身代表と僕とで、これから彼らが経験して行くことになる。親元を離れた地で、大震災に遭ったという想定で、被災1時間後をイメージして、自分はどうしたらよいか、何が出来るかをグループで話し合い発表してもらった。

3. 4日目は、AED及び濃煙体験を行った。

村山・宮澤両氏からは多忙の折、尽力いただき感謝の念に堪えない。

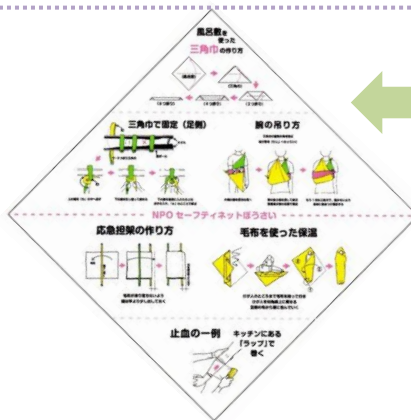
この4日間で彼らに何を教えることができたかは疑問が残る。

十日町高校ゲストティーチャー



しかし、一つでも彼らが何かに
閃いて体得できたことがあった
ならば、僕らは満足である。来
年またこの授業が催されたなら
ば、ワークショップに時間を多
く取り、彼らの様々な考えを聞
き出したいものである。

濃煙体験！



創作の防災風呂敷を
生徒の皆さんに手渡
しました。濃煙体験の
機材と防災風呂敷は、
赤い羽根共同募金の
助成を受け購入、作成
致しました。

今年度の自主防災組織支援業
務委託事業に対して、工夫した
点や改善すべき点について振り
返って見たい。
(一) 工夫点
訓練資機材が今、何処に、何が、
幾つあるのか把握できない、ま
た資機材の搬出、返納のルール
が定まっておらず管理が不十分
であることから、「自主防災訓練
資機材リスト」及び「自主防災
訓練資機材管理マニュアル」を
作成することとした。リストに
ついては資機材の洗い出しから
始め、AED蘇生訓練、消火訓
練、応急処置訓練などの訓練ご
とに品名、数量、収納箱、保管
場所を整理しリストを作り上げ
た。収納箱に品名と数量が分か
るようにラベルを貼り付けたの

今年度の委託事業について
事業委員長 藤木忠雄

で、片付け時に員数チェックが出来るようになった。

また管理マニュアルについては派遣依頼受付票の受領から資機材棚卸まで、訓練の流れに沿って12項目の手順や担当者を明記し、誰が、何をするのか分かるようにした。そして受付表の「連絡事項記載欄」を活用して訓練資機材は何を、幾つ、どこから持ち出すか及び指導者の割り当てと分担を明示し、事前に訓練のイメージをできるようにしたこと、安心して訓練に臨めるようになった。

(2) 改善点

委託事業 訓練回数	
回数	年度
42	H25
35	H26
44	H27
35	H28
33	H29

右表は自主防災組織の訓練回数を表したものである。この数

年は減少傾向と見るか、ほぼ横ばいと見るかは人様々であるが、ここに現れない問題点が潜んでいる。と言うのは毎年やっている組織、これは褒めたたえたい。しかし、ある特定のリーダーの時だけやった組織、まったくやってない組織、この辺をどう土俵に乗せるか。訓練というのは毎年継続していかないと効果が少ない。

NPOとしては、今までは相手からの応募に対応してきたことを反省し、来年度からは訓練に消極的な組織に対しても、一人ひとりが目を向けて拡大を図っていききたい。
まずはメンバーの身近な町内、集落への声掛けから始めたい。皆様のご協力をお願いします。



編集後記

1月、2月に押し寄せた寒波は新潟県内に大きな交通障害をもたらしました。

雪が降ると知っていても、降雪量が予想を上回ったり、普段降らぬ土地に大量に降ったりすると「災害」になります。限られた除雪設備の中でいかに早く普段の生活を取り戻すか。防災の要でもある「そなえ」の心構えが大切だと感じました。「降るかもしれない」と心に留めること。それだけでも、いざ災害が起こった時、対応する最初の一歩が大きく変わると思います。(正)

